

令和3年度 第1回ユニバーサル都市・福岡推進協議会 議事要旨

- 1 日時：令和3年9月2日（木） 13時00分 から 14時45分 まで
- 2 場所：オンラインにて開催
- 3 出席者：
荒牧委員、猪野委員、郷原委員、定村委員、清水委員、
張委員、関根委員、藤委員、平井委員、吉住委員
(欠席者：シグデル委員、松浦委員)
- 4 開会
委員紹介
- 5 議題

(1) 委員長、副委員長の選出について

- ・委員長は、委員の互選により定村委員を選出
- ・副委員長は、委員の中から平井委員を委員長が指名

(2) 令和3年度におけるユニバーサル都市・福岡の推進について

- ・事務局より、資料2に基づき内容を説明

委員からの主な意見

<今年度の主な取組みについて>

- ・「ユニバーサル都市・福岡アンバサダー」（以下、「アンバサダー」という。）については、ユニバーサルデザインに対する理解を深めてもらったうえで、活動してほしい。
- ・アンバサダーの理解を深めるために講義が必要であれば、協力できる。
- ・アンバサダーについて、障がいのある当事者が入っていると効果的な啓発につながるので、検討してほしい。
- ・アンバサダーがユニバーサルデザインのある場所を取材する企画については、(張委員がつくられている)場所ごとに必要なユニバーサルデザインを整理したチェックリスト等を活用すると、より良いものになるのではないかと。
- ・「外国人支援ボランティアバンク」はとても素晴らしい取り組みであり、留学生にも広めていきたい。ホームページ上の目立つところに多言語で表記したうえでお知らせしてほしい。また、多くの留学生は区役所の窓口に行くことが多いので、

各区役所でQRコードを載せた案内チラシ等を配布すると、効果的な情報発信につながるのではないかと。

- ・外国人が「外国人支援ボランティアバンク」を利用しやすいように、ホームページの申し込みのページは多言語表記にした方が良い。
- ・「ご遺族サポート窓口」が全区展開になったのはとても喜ばしい。福岡市の素晴らしい取り組みだと思う。
- ・「遠隔手話通訳サービス」は、使い勝手の良し悪しがあるので、チェック機能が働くことより良いものになる。
- ・「福岡版ユニバーサルマナー検定」は、8月分で100名以上の申し込みがあり、素晴らしい取り組みである。
- ・「福岡版ユニバーサルマナー検定」における視覚障がい者への情報保障については、点字の選択肢も重要であるが、点字を利用しないロービジョン（弱視）者の存在にも留意して、点字だけでなく、テキストデータやデジタイズ※、アクセシビリティ対応のPDFなど、その人のニーズに最適なツールを選択して提供してほしい。また、写真や画像、図表など、文字化できない情報についても、情報保障として必ず説明を付してほしい。

※国際共同開発機構デジタイズコンソーシアムによって開発された、より幅広い場面で情報をアクセシブルにするシステム（国際標準規格）

- ・「Instagramを活用した情報発信」については、これまでのフォロワー数等を分析して、新規事業でどの程度の増加を見込むかなど、適切な目標設定が重要。
- ・「重度障がい者等就労支援事業」については、障がい者当事者からすると非常にありがたい。こういう支援をしていただけると、積極的な就労につながる。また、就労支援対象にリモートワークも含めてほしい。
- ・「福岡オレンジパートナーズ」について、民間企業に拡大したいということであれば、色々協力したい。

6 意見交換 【テーマ】児童向け副読本の改訂について

委員からの主な意見

- ・「さまざまな人がいる」ことを紹介するページの事例の中に、聴覚障がい者とLGBTQの方々も入れると良い。
- ・「さまざまな人がいる」ことを紹介するページの事例の中に、肌の色や体型の観点も入れると良い。

- ・「様々なユニバーサルデザイン」を紹介するページについては、実際に学習する小学生がもっと分かりやすいような工夫が必要。また、ユニバーサルデザインの掲載例が商品に偏っているので、合理的配慮などのソフト面も入れると良い。
- ・副読本を改訂する際には、教員向けの活用ガイドも合わせて改訂した方がいい。また、教員についても、ユニバーサルデザインに関する理解を深めてもらったうえで、授業をしてほしい。
- ・全体に抽象的なので、福岡市の新しい取組み事例等を入れて、小学生のイメージが湧きやすいものにした方が良い。
- ・「障がいのある人のことを考えてみよう、体験してみよう」といった企画などについては、古い価値観に基づくものが多く、全体的に企画を見直した方が良い。
- ・改訂内容を議論する編集委員会には、実際に使っていただく小学校の教員に加えて、ユニバーサルデザインの専門家も入れて議論すべき。
- ・事務局(市)では、一度デジタル化を含めて軽微な改訂を行った後、デジタル教科書の普及にあわせて再度改訂を進めるような、二段階で改訂を考えているようだが、副読本を作成してから約7年半が経過しており、ユニバーサルデザインに関する状況は大きく変わってきているので、一度に全面改訂を行うべき。
- ・改訂に向けたワークショップ等を開催する必要があるれば、九州大学として協力できる。

7 閉会